

大通公園を望む窓辺から

趣味のピアノ

常任理事 はせべちとみ 長谷部千登美

私は小学校1年生の時からピアノを習い始め、中学生までは「将来の夢はピアニスト」と言い続けてきました。当時の先生は、今思えば大変厳しい方で、指の形や腕・肘の使い方が悪いと「ダメ、やりなおし!」と一喝されることが常でした。多少怒られても気持ちを切り替えてあまり落ち込まないようにする、そんな心の持ち方をピアノと一緒に習ってきたように思います。

高校2年で進路を考える段階に至り、音楽の道に進むという気持ちに迷いが生じました。一流の演奏家になるほどの才能は自分にはないという現実気づいた訳です。人の役に立つ仕事がしたい、難関に挑戦してみたい、という思いで医学部志望に方向転換し、ピアノは趣味で続けることにしました。当時はこれが人生の最初の挫折と思っておりましたが、徐々に、この方向転換は正解であったと思えるようになりました。

その後、学生時代には音楽サークルでピアノを担当し、最近では病院のロビーコンサートで何度か演奏させていただきました。コンサートでは、選曲を考えるのが大きな楽しみで、毎回クラシックの名曲の一つは加えるようにしています。数年前、難曲のラ・カンパネラに思い切って挑戦した時、本番での演奏の出来映えはさておき、難関に挑戦したという心地よい達成感を覚えることができました。

ロビーコンサートでは、患者さんやそのご家族が、そろって最前列に陣取って聴いてくださいました。このように楽しんでくださる方がおられることで、ピアノを続けてきて良かったと実感します。一昨年からコロナ禍のためにコンサートが開催できていませんが、将来また音楽を楽しんでもらえる日が来ることを願いながら、趣味のレベルを維持していきたいと思っています。さらに最近、孫との連弾という夢も加わりました。いつ実現できるか、楽しみです。



新型コロナウイルス感染症 (SEVID-21) -Selfishness Virus Induce Disease-the21st century-

監事 かじ 梶 よしゆき 良行

確かに地球の温暖化は進行している。北海道では、イカやサンマが不漁で、シャケも帰ってこない。赤潮の影響でウニも大量に死滅した。全国各地で頻発する地震や台風。短時間に降る大量の雨で山は崩れ、町は流される。地球が怒っている。

ここ数年、野生動物が人里に現れるケースが増えた。ヒトの勝手な理屈で森は破壊され、山の食糧が減った。家畜を襲うオオカミは駆除されて久しい。天敵がいなくなった鹿は個体数を増やし、木の実や植物を食いあさる。すると熊の取り分が減る。そこで人里に降りて畑を荒らす。時には人を襲い殺してしまう。

悲惨な殺人事件が、引きも切らずに報道されている。犯人は異口同音に「むしゃくしゃしていた」「誰でも良かった」「人を殺せば死刑になれると思った」と言う。いずれも身勝手な言い草だ。「記憶にございません」のおかしな日本語や「ご飯論法」が幅をきかせる現代。“無理が通れば道理が引っ込む”。他人がどうなろうと、結局、ヒトは自分だけが可愛いのだ。世界中で新型コロナウイルスが猛威を振っている。ワクチン接種が進んだわが国では、新規感染者数が減少したが、新たな変異ウイルスが誕生したため、政府は3回目の接種を行うことを決定した。一方、世界には、未だに一度もワクチン接種を受けていない多くの人がいる。

自然を破壊しても経済を成長させると意気込み、少女の提言を一笑に付す愚か者も、嘘に嘘を重ね、事実を隠蔽するどこかの国のリーダーも、新種のウイルスに感染しているに違いない。このウイルス”を、私は『Selfishness Virus (自分のことしか考えないウイルス)』と命名し、その感染症をSEVID-21と呼ぶことにした。ヒトから良心と慈しみの心を奪う、このウイルスが大きな空を吹き渡り、世界中を震撼させているのだ。もしかすると、あなたも既に感染しているのかもしれない。そう考えると恐ろしい。COVID-19よりも。